

登録コード:MH259300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	病理組織検査学実習【20M以降】 Practice in Histotechnology			
担当教員	木村 文一 太田 浩良			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	検査技術科学専攻/3年		前期	木曜・1時限 木曜・2時限
単位数、講義室	2単位	保健学科241講義室	保健学科形態系実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH22カリ・保健, MH20カリ・保健			
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		実習を通して各種病理標本作製の基本技術を身につける。	
	MH25カリ・保健・検査, MH23カリ・保健・検査			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		実習を通して病理検査の流れと方法を理解する。	
授業で学べる「テーマ」	環境共生、健康長寿			
	全学横断特別教育プログラム			
授業概要	病理診断に用いる各種特殊染色法の意義を学び、その方法と基本技術を習得する。また、実習で作製する染色標本を顕微鏡で観察し、染色結果に対する評価の視点や病理組織標本の基本的な見方を学ぶ。 本授業は臨床検査技師としての実務経験を活かして講義・実習を行います。また、本授業は、1年次に学んだ「組織学」「組織学実習」「系統解剖学」、2年次に学んだ「病理検査学」の知識を前提とし、4年次の臨床実習における重要な基礎知識になります。			
授業計画	第1回(4月9日) 組織検査・細胞診検査の意義と検査法, 組織検査・細胞診検査の精度管理, 組織検査・細胞診検査の標準化 第2回(4月23日) 結合組織染色法の理論と方法(アザン染色法, エラスチカ・ワンギーソン染色法, 鍍銀染色法, PAM染色法) 第3回(5月7日) (試薬調整) アザン、マッソン、EVG、V・Bの試薬調整・鍍銀、PAM染色の一部の試薬調整・ 第4回(5月14日) 組織検査(特殊染色), 試薬調整(アザン, マッソン, EVG, V・B)【学内実習】 第5回(5月21日) 試薬調整(鍍銀法・PAM), 医用画像工学 第6回(5月28日) 染色実習(鍍銀法, PAM)【学内実習】 第7回(6月4日) 糖質染色法の理論と方法(PAS反応), アルシアン染色法(試薬調整含む) 第8回(6月11日) 染色実習(PAS, AI-B)【学内実習】(中間試験) 第9回(6月18日) 組織内病原体の検出法(グロコット染色法)(試薬調整含む) 第10回(6月25日) 染色実習(グロコット, AI-B・PAS)【学内実習】 第11回(7月2日) アミロイド染色法, 組織内無機物質の証明法(鏡検スケッチ含む) 第12回(7月9日) 神経組織の病理組織像と染色法(ニッスル染色法, ルクソール・ファスト青(LFB)染色法)(試薬調整含む) 第13回(7月16日) 染色実習(神経組織の染色法)【学内実習】 第14回(7月23日) 迅速検査の意義と標本作成法(凍結標本作製法), 脂肪染色法(鏡検スケッチ含む), 染色標本の観察・評価法/検査結果の解析と評価【学内実習】 第15回(7月30日) 免疫組織化学・電子顕微鏡観察法概論, 病理遺伝子解析の意義<授業アンケート> 第16回(8月6日) 期末試験			
授業の進め方	講義と実習 本授業は、パワーポイントのスライド、配布資料、そして、板書に基づいて進めて行きますが、能動学習による理解の深化を目指すため、質疑応答にも重きを置いて展開していきます。染色標本の顕微鏡観察およびスケッチ。			
テキスト, 教材, 参考書	教科書: 1)最新臨床検査学講座 病理学/病理検査学 第1版(医歯薬出版) 2)最新染色法のすべて第1版(医歯薬出版) 3)ポケットマスター臨床検査の整理 病理学/病理組織細胞学 4)病理検査学実習(プリント):後日配布します。 参考書: 1)金井正光 編著:臨床検査法提要第34版(金原出版)			
成績評価の方法	中間試験、実習レポート、期末試験に基づいて総合的に成績を評価します。総合評価の配分は、中間試験、実習レポート、期末試験いずれも100点満点とし、中間試験、実習レポート各10%、期末試験80%の配分率で合計したものを最終評価とする。合計が60点未満は不可とする。 中間試験は第8回(6月11日)、期末試験は授業最終日第16回(8月6日)に筆			

成績評価の方法	記試験、スライド試験として行なう。 中間試験、実習レポート、期末試験では、特殊染色の方法、疾患との関係性に関する理解度を確認する。
成績評価の基準	成績評価の判定基準は、90-100点:秀、80-89点:優、70-79点:良、60-69点:可 【筆記試験の場合】 採点の基準は、行動目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における、最低限の解答内容であれば「水準にある(可)」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある(良)」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある(優)」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している(秀)」と判定します。 【レポートの場合】 (i)問題の設定が適切であり、(ii)その問題の背景を説明できており、(iii)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v)その上で自分の理解を提示できており、かつ教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」。(i)から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」。4項目まで出来ていれば「やや上にある(良)」。3項目までできていれば「水準にある(可)」。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 毎回の授業の終わりに、次回までに調べてくるべき予習(事前学習)内容について説明を行います。 【事後学習について】 毎回、授業のはじめに、前回の授業の要点について復習(事後学習)してきた内容や、能動学習として学んできた内容についての質問を行いますので、自分の言葉で端的にわかりやすく説明できるように準備して授業に臨んでください。 本授業の単位習得には、90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間60時間(2時間×30回)+ 自己学習時間30時間(1時間×30回)= 90時間
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	実習授業はテキパキと行動すること。遅刻は他人に迷惑をかけることになるのでしないように。質問や相談は随時受け付ける。 質問への対応：随時受け付ける。木村文一kimura_f@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時 保健学科中校舎3階 木村文一研究室